

領土の擴張の爲めの争ひであつた我々同胞幾百萬の労働者は彼等の野心の爲に犠牲に供せられた戦場に追ひやられて彈丸の的となり平時は資本家の奴隸として人間としての一切の權利と自由を奪はれたる生ける屍であつた、今日の労働者は昔日の唯だ飯を食ふ機械的人間はない實に世界戦争は此偉大なる教訓と自覺とを全労働者に與へたのである教られた是れに向て最も勇敢に邁進したのはロシアの労働階級である。人間が労働に依て生存する眞意義から「働かざる者は食ふ可からず」を原則として、人間平等相互愛助の社會を建設して居る勞農ロシアに對して各ブルジョア政府はあらゆる中傷と罵詈雑言を以てしても尙足りないで、國民の膏血の莫大な費用と無數の人命を失なつた出兵迄して資本家擁護の政策を取つたのである、是れに對して日本の各團體は、ロシア承認即時撤兵の決議をもたらし、てプロシヤに迫まつた今や此ロシア労働者國の援助は世界労働者の聲である、彼等がいかに新興の労働階級の擡頭を抑壓せんとするも彼等は労働の恩恵に依つて生存して居るのである、故に我々が供給の組織を造直した時に彼等は滅亡する、彼等が滅亡する時に労働者の解放がある、我々の解放せられた時に社會は公正の位置に於かれる、今や社會改造の叫は世界の思潮である見よ各地の労働争議、水平運動、社會運動は新社會を産み出さんとする産のなやみである世界の大勢にさをして進むとせざるブルジョアの濁流に押し流されて居る、廣島の現狀を默視する事が出来ない、止み難き革命的熱意に驅られて茲に革進會は生れた

腕に一脈の血の通ひ人間の温き血の持主よ
來れ高く掲げる正義人道の旗の下に
來りて 遇儼、虚偽、不合理を以て造られたる資本主義崩壞の意義
深き聖戰に加え
虐げられつゝある労働者も女性も水平社の人も俱に起て敵は同じ資本主義

千九百二十三年四月二十日

廣島青年革進會

大正十二年五月二十三日印刷

同年同月廿四日發行

印刷人兼發行人 廣島市廣瀬町六二番地 三崎良水
發行所 廣島市廣瀬町六二番地 廣島青年革進會
印刷所 廣島市大手町二丁目四番地 廣島活文社
電話 二三三五番